３－１　学校研究計画　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　橋立小学校

１　研究主題

主体的・協働的に学び、考えを広げ深める子どもの育成

～ICTを活用した学びの自覚と学ぶ楽しさがある算数授業の創造を通して～

２　主題設定について

社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきている。正解ではなく最適解を求める世の中において、子どもたちが、　様々な知識や技能を多角的に結び付けながら直面する課題に対して深く考えようとするとともに、自信や意欲をもって課題の解決を図ろうとする態度を養うための学校教育が今求められている。このような中、昨年度に加賀市学校教育ビジョン「Be the Player」が発出され、これからの時代に必要な「常識や前提にとらわれない新たなものを生み出す力」「問題発見力」「課題解決力」「革新性」の育成を指針とした学校教育を目指していくということが明確になった。この実現には、ＩＣＴを教師も子どもも日常的に活用し、効果的に学習活動に取り入れることが必要とされると考えられる。また、今年度本校においては、「リーディングDXスクール」及び「ICT活用指導力強化事業」の指定を受けており、ＩＣＴを効果的に活用した指導力の向上と授業改善を目指していく。そのため、研究推進委員会にGIGA推進リーダーも加え、ＩＣＴ活用を積極的に取り入れていく。

本校の児童は、一昨年まで国語科の授業研究を行った積み重ねもあり、児童が仲間と対話しながら学んだり、自分の考えを伝えたりすることが概ねできている。また、昨年度は学校研究を算数科に切り替え、「つけたい力を明確にした算数科授業」を研究主題に授業改善を進めてきた。この2年間で、「つけたい力」を教師と児童が共有することで、見通しを持って学ぼうとする児童の姿を実現してきた。このような研究の積み重ねにより、児童の対話的な学びや課題意識を持って学ぶという視点で一定の成果があったものの、対話のタイミングや課題設定は教師からの提示や指示・誘導によるものが多く、今求められている課題を発見する力や自らの学びを調整する力については弱いといえる。またＩＣＴ利用については、どの児童も利用ルールを守って使うことができ、教師も授業に取り入れてはいるが、操作技能や活用場面の工夫など、ＩＣＴをいかに日常的・主体的に活用することができるかは発展途上である。

そこで、今年度は研究主題を「主体的・協働的に学び、考えを広げ深める子どもの育成～ＩＣＴを活用した学びの自覚と学ぶ楽しさがある算数授業の創造を通して～」とし、主たる研究教科は昨年度に引き続き算数科で、ＩＣＴの効果的な活用を軸に授業研究を行う。主題にある児童の姿は、９年間の義務教育課程を見通したものであり、小学校では副題にあるような授業の創造を通して、主題にある児童の姿を実現したい。ここでの主体的に学ぶとは、児童が「自分から」「自分たちで」課題を発見したり解決のための過程を踏んだりすることであり、学びに積極的に向かう姿が求められる。また、児童の声が響き、児童が主役となって学ぶ授業をつくるために、個別最適な学びの実践もＩＣＴの活用を通して実現したい。ICTを効果的に活用する中で、児童が主体的な学びの姿を実現するための算数科を中心とした授業研究が、他教科での効果的な実践にも広げられるように、汎用性のあるＩＣＴ活用の方法を探っていく。

また、児童が主体的に学ぶ際に仲間と協働することによって、多様な考えを自分の考えに付加することができる。このことで「考えを広げ」、他者との対話により考えを「深め」ていくことが、児童の学びをより豊かにしていく。そしてICTを効果的に活用することで、教師も児童もこれまで以上に学ぶことの楽しさに気付き、他者との協働がいっそう主体的な学びを引き出せるものと考えている。さらに、児童が授業のふり返り等で「新しいことが分かった！」「昨日より粘り強くできた！」「より多くの友達と交流できた！」「できなかった問題ができるようになった！」などと、学習や自己調整、協働といったあらゆる観点で、自分の学びを自覚し、その喜びが「学ぶことが楽しい」という気持ちを引き出すことで、９年間の学びを支えるだけでなく、生涯を通じて、いつでも主体的に学び続ける意欲にも繋げたい。

「そろえる教育から伸ばす教育へ」を意識し、児童の「自分から」「自分たちで」主体的に学ぼうとする姿や、協働的に学ぶ中で一人ひとりの違いを認め、考えを広げ深めていく姿を、ICTを効果的に活用した学びの中で具現化していく。こうして誰ひとりとり残さず、児童が自らの学びを自覚し、学ぶことにワクワクするような授業づくりを実現していきたい。

３　研究の組織

研究推進委員会

校長・教頭（小中）・教務主任（小中）・研究主任（小中）・GIGAスクール推進リーダー（小中）

研究全体会

中学校

各教科担任

小学校高学年部会

４・５・６年担任

級外・研究主任

GIGAスクール推進リーダー

小学校低学年部会

１・２・３年担任

級外・研究主任

GIGAスクール推進リーダー

４　研究の内容

（１）ICTを活用した学びの自覚

①　つけたい力を明確にしたICTの効果的な活用。

②　見通しを持って学ぶための学習計画の共有（教師と児童間、児童と児童間）の推進。

（２）ICTを活用した学ぶ楽しさがある授業改善

①自分の考えを発表したり、友達と意見交流したりする時間の確保。

②子どもが自らの学習を調整しながら粘り強く取り組むことができるようにする工夫。

（３）教師の指導力向上

　　　　①GIGAスクール推進リーダーを中心とした、ICT活用のための研修。※日常的な情報共有を行う。

　　　　②デジタル教科書の活用法や、有用なソフトの使用法の研究と情報共有・実践。

５　研究成果の検証方法

・児童アンケートを年３回実施し、算数科の学習に関する成果と課題をつかむ。

・教師アンケートを年３回実施し、授業改善についての成果と課題をつかむ。

６　研究全体構想図

〈学校教育目標〉心豊かにたくましく　自主的に行動し　自らの生き方を創造する　児童の育成

**研究主題**

主体的・協働的に学び、考えを広げ深める子どもの育成

～成長を実感し学ぶことが楽しいと感じる算数授業の創造を通して～

授業改善

（１）ICTを活用した学びの自覚

①　つけたい力を明確にしたICTの効果的な活用。

②　見通しを持って学ぶための学習計画の共有（教師と児童間、児童と児童間）の推進。

（２）ICTを活用した学ぶ楽しさがある授業改善

①自分の考えを発表したり、友達と意見交流したりする時間の確保。

②子どもが自らの学習を調整しながら粘り強く取り組むことができるようにする工夫。

（３）教師の指導力向上

　　　　①GIGAスクール推進リーダーを中心とした、ICT活用のための研修。※日常的な情報共有を行う。

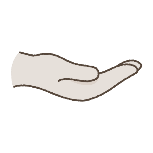
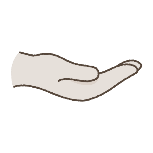
　　　　②デジタル教科書の活用法や、有用なソフトの使用法の研究と情報共有・実践。

多様な他者との協働　　違い＝価値

個に応じた学習方法・学習課題

個別最適な学び

協働的な学び



**ICTの効果的な活用**

**文房具としての日常的な利用**

**授業の課題提示・児童の見取り・発表場面・まとめ・ふり返りでの活用**

**デジタル教科書の活用**

学習基盤づくり

授業規律の確立

児童の特性等に応じた指導

基礎・基本の定着

（朝のスキルタイム・家庭学習の充実）

学力向上ロードマップ

自己調整力

粘り強さ

コミュニケーション力

学級経営

自己存在感　　　　共感的な人間関係　　　　　自己決定の場　　　　　安心安全の風土　　　QUの実施

７　研究計画

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 実施時期 | 校内研究会など | 内容 |
| ４月中旬  ４月２７日（木） | 校内研修会①  研究全体会① | 研究計画の作成  提案授業　6年  研究主題・研究内容・研究計画等の共通理解 |
| ５月下旬 | 中学年部会 | ３年研究授業の指導案検討 |
| ６/２２（木） | 校内研修② | アドバイザーによる講話・デジタル教科書活用研修（小中合同研修） |
| ６/２９（木） | 研究全体会② | 計画訪問　３年研究授業 |
| ７月上旬 | １学期のふり返り  低・高学年部会 | 第１回アンケート実施  2年・5年模擬授業の指導案検討 |
| ８月7日（月） | 校内研修会③ | ２年・5年模擬授業（小中合同研修・大学教授招聘） |
| ９月中旬 | 低・中・高学年部会 | 2年・５年・１年または４年指導案検討 |
| １０月中旬 | 校内研修会④ | 1年または4年研究授業 |
| １１月２０日（月） | 研究発表会 | ２年・５年公開授業 |
| １２月上旬 | 校内研修会⑤  研究全大会③  ２学期のふり返り | 研究発表会の改善点を活かした研究授業　１年または４年  ２学期のふり返りと学校研究のまとめについて  第２回アンケート実施 |
| １月中 |  | 研究のまとめ |
| ２月中旬 | 校内研修会⑥ | 今年度の研究の成果と課題について  研究紀要・成果と課題提出 |
| ３月中旬 | ３学期のふり返り  研究全大会④ | 第３回アンケートの実施  次年度の研究の方向性 |